

競 技 注 意 事 項

1. 本競技会は、2026年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会要領により実施する。

2. 競技場使用について注意

- (1) 更衣は、管理棟内の更衣室を利用し、貴重品は各自で責任をもって管理すること。
- (2) 練習は補助グラウンドを使用すること。また競技場においてリレー競技を行わない時間に限り、競技場バックストレートは練習会場として開放する場合がある。(アナウンスにより合図する)
- (3) 競走競技においてフィニッシュした後は、第2・第3・第4コーナーをまわってスタート地点に戻るか、メインスタンド東側の階段を上り、メインスタンド外側通路を使用すること。
(※大会本部のある正面スタンド前は通行しないこと)
- (4) メインスタンドの上段部にのみテントの設置ができる。
- (5) 管理棟内会議室をすべての来場者を対象にクールスポットとして開放する。また男女それぞれの更衣室も指導者・選手に限り、クールスポットとして利用できる。

3. 競技者招集

(1) 招集時間は下記のとおりとする。

① トラック競技

1次招集 招集所にて	競技開始時刻50分前開始、30分前に完了
2次招集 スタート地点にて	競技開始時刻10分前に完了

② フィールド競技

1次招集 招集所にて	競技開始時刻1時間10分前開始、50分前に完了
2次招集 競技場所にて	競技開始時刻30分前に完了

③ リレー競技

オーダー提出締切 招集所にて	1組の1次招集完了時刻60分前に完了
1次招集 招集所にて	競技開始時刻50分前開始、30分前に完了
2次招集 それぞれの走者スタート地点に	競技開始時刻10分前に完了

(2) 招集場所及び方法は次のとおり。

① 1次招集は、招集場(競技本部、上の園路沿いスペース)で行う。

- ア. 提示されたリストの自分の番号に○をつける。
- イ. トラック競技は「腰ナンバー標識」をとる。
- ウ. アスリートビブスの点検は2次招集(現地)で受けるのでまずは自分で確認しておく。
- エ. ア〜ウが完了したら、各自で競技場所(現地)へ移動する。

② 2次招集は、競技場所(現地)で行う。(競技箇所図を参照)

- カ. 代理人は認めない。
- キ. 競技役員の指示に従って、最終コール及びアスリートビブスの点検を受ける。
- ク. 2次招集完了時刻に現地にいない競技者は当該種目の参加から除外されDNSと記録される。

(3) 欠場者は、競技者係に1次招集完了10分前までに欠場届を提出すること。代理人による提出も認める。欠場届は招集所で受け取る。

4. 用器具について

- (1) スターティングブロックについては、使用しない。(ただし、決勝のみ使用を認める。)
- (2) ジャベリックボールは主催者が準備したものを使用する。

5. 競技について

全 般

- (1) トラック競技の組及びレーンおよびフィールド競技の試技順はプログラム記載の通りとする。
- (2) アスリートビブスは主催者が準備した番号のものを胸背部に四隅を固定し着用すること。但し、跳躍競技の競技者は、胸または背につけるだけでもよい。(アスリートビブスを着用していない選手は出場できない)
- (3) トラック競技とフィールド競技にまたがって同時間帯に出場する場合は、フィールド競技役員にその旨申し出てトラック競技を優先して出場することを原則とする。
- (4) 競技者とコーチ等指導者のコミュニケーションの場所として、競技区域外にコーチ席を設ける。競技者への助言はコーチ席から近隣の関係者と距離をとって行うこと。コーチ等指導者がコーチ席内から選手とコミュニケーションするのは助力にあたらぬ。
- (5) ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することはできない。(フィールド競技者は、競技区域外から撮影された録画映像を録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば、競技区域内に持ち込むことが認められる。ただしコーチ席前に限る)

トラック競技

- (6) トラック競技に出場する競技者は、配付された「腰ナンバー標識」を右腰やや後方に貼り付けること。
- (7) スタートについては、下記のとおりとする。
 - ・ スタートの合図は、イングリッシュコールで行う。

(「On your marks(位置についての意)」 「Set(用意の意)」 「パン(ピストル音)」とする。

- ・100m・80mH・4×100mR・男女混合4×100mRのスタート方法はクラウチングスタートとする。なお、60mのスタート方法は、スタンディングスタートも認める。
 - ・トラック競技のスタートにおける失格については、同じ競技者が2回不正スタートした時、その競技者を失格とする。
 - (8) セパレートレーンを使用する競走種目(60m、100m、80mH、4×100mR、男女混合4×100mR)では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。
 - (9) 80mHの設定は以下の通りとする。
- | スタートから第1ハードルまで | インターバル | 最終ハードルからフィニッシュ | 高さ | 台数 |
|----------------|--------|----------------|------|----|
| 13m | 7m | 11m | 0.7m | 9台 |
- (10) リレーに出場するチームは、同一ユニフォームで参加しなければならない。(形状は統一する必要はないが、デザイン・配色は統一すること)。
 - (11) リレー競走で使用するマーカー(5cm×40cm以内の粘着テープ)は出場チームで準備すること。使用したマーカーはレース後に当該チームにおいて必ず取り除くこと。
 - (12) リレーにおけるテイクオーバーゾーンは30mとする。
 - (13) 60m、100m、80mH、4×100mRは上位8名(8チーム)を選び決勝を行う。なお、決勝ボーダーライン上で0.01秒単位で同記録があった場合、0.001秒で着差判定をして進出者を決める。着差がない場合は抽選とする。
 - (14) 決勝出場者は予選終了後、速やかに通告・発表(記録速報はWEB上で発表)するので、決勝出場の準備をしておくこと。また、招集場にて点呼を必ず受けること。

フィールド競技

- (15) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。投てき種目の練習会場は、競技開始予定時刻30分前から競技場内投てきピットを開放する。
- (16) 走幅跳、ジャバリックボール投の試技は全ての競技者に3回の試技を与える。またトップ8の競技者にはさらに3回の試技を与えられ、決勝を行う。
- (17) 走高跳は危険防止のため背面跳及びベリーロールは禁止する。
(マットへの着地は足の裏からとし、背、腰等からの着地は無効試技とする。)
- (18) 走高跳のバーの上げ方は、次のとおりとする。
(練習 80cm) 85・90・95・100・105・110・115・120・125・130・133cm …… とする。
- (19) ジャバリックボール投げはやり投げピットを使用し、助走は15m以内とする。

シューズについて

- (20) 本競技会は、日本陸連競技規則を適用するが、シューズ規則については適用しない。
- (21) スパイクは使用してもよい。
スパイクピンの長さは9mm以内の平行ピンを使用すること。
※全天候型トラックでも使用できるとされている鋭利なピン付きスパイク(ニードルピン)は使用できない。
※素足での競技は禁止する。

6. 記録の発表について

- (1) 記録の掲示は行わず、WEB上にて発表する。
プログラム表紙及び園内各所に掲示する二次元コードを読み取るか<https://result.hokutan-rk.jp/>にアクセスすることで閲覧することができる。

7. 表彰について

- 各種目第3位まで賞状とメダルを授与する。また出場者全員には後日、記録証を交付(郵送)する。
※記録の無い場合や欠場の場合は、記録証を作成しない。

8. その他

- (1) 競技中の障害・疾病については応急処置は主催者にて行うが、以後の責任は負わない。
(傷害保険の範囲内にて対応とする)
- (2) 競技場周辺の清掃に留意し、ゴミは各自で全て持ち帰ること。
- (3) 競技場の用器具、機器等を破損等した場合は、大会総務に必ず申し出ること。(保険対象となる場合有り)
- (4) 雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、主催者の判断で競技を一時中断する。
- (5) 熱中症特別警戒情報が発令された場合、又は荒天やウィルス性の感染症など競技運営および安全確保に支障をきたすと主催者が判断した場合は、大会を中止する。
また熱中症警戒情報が発令された場合、又は悪天候により競技運営に支障をきたす恐れがあると主催者が判断した場合は、競技日程を変更し、トラック種目は予選レースすべてをタイムレース決勝に、フィールド種目は試技を3回とし、決勝試技は行わない。詳細は北丹陸上競技協会のホームページで発表する。